

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5940483号
(P5940483)

(45) 発行日 平成28年6月29日 (2016. 6. 29)

(24) 登録日 平成28年5月27日 (2016. 5. 27)

(51) Int. Cl. F 1
E O 4 H 1/02 (2006. 01) E O 4 H 1/02

請求項の数 6 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2013-83212 (P2013-83212)	(73) 特許権者	504093467
(22) 出願日	平成25年4月11日 (2013. 4. 11)		トヨタホーム株式会社
(65) 公開番号	特開2014-205979 (P2014-205979A)		愛知県名古屋市東区泉一丁目2 3 番 2 2 号
(43) 公開日	平成26年10月30日 (2014. 10. 30)	(74) 代理人	100121821
審査請求日	平成27年8月28日 (2015. 8. 28)		弁理士 山田 強
		(72) 発明者	長谷部 裕香
			愛知県名古屋市東区泉1 丁目2 3 番 2 2 号
			トヨタホーム株式会社内
		審査官	渋谷 知子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

建物内の部屋として、食料品等を収納する食品庫であるパントリーがキッチンに隣接して設けられた建物であって、

前記パントリーは、前記キッチンの他に洗面室にも隣接して配置されており、

前記パントリーへの出入口として、前記キッチンから前記パントリーへの出入りを可能とする第1出入口と、前記洗面室から前記パントリーへの出入りを可能とする第2出入口とが設けられており、

前記パントリーは、さらに外壁を隔てて屋外に隣接しており、

前記外壁には、前記パントリーから屋外への出入りを可能とする第3出入口が設けられており、

前記パントリーは、平面視にて長形状をなしており、その四方が前記外壁を含む4つの壁部により囲まれており、

前記パントリーを長手方向に挟んで対向する2つの壁部のうち一方の壁部に前記第2出入口が設けられ、他方の壁部の壁面に沿って食料品等を収納する収納棚が設置されており、

前記パントリーを短手方向に挟んで対向する2つの壁部にはそれぞれ前記第1出入口及び前記第3出入口が設けられており、

前記第1出入口と前記第3出入口とは前記パントリーを挟んで対向配置され、かつ前記長手方向において前記収納棚と前記第2出入口とのうち前記収納棚寄りに配置されている

10

20

ことを特徴とする建物。

【請求項 2】

前記キッチンに隣接してダイニングが設けられており、

前記キッチンと前記洗面室との間を前記ダイニングを経由して行き来する場合に、前記洗面室への出入りを行うための出入口として第 4 出入口が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の建物。

【請求項 3】

前記キッチンと隣接しかつ囲み部によって囲まれた居室が設けられており、

前記囲み部には、前記キッチンと前記居室との間を出入りするための出入部が設けられており、

前記出入部には、前記囲み部の一部であってかつ当該出入部を開閉する開閉部材が設けられており、

前記開閉部材は、前記キッチンから前記居室を見通すための見通し部を有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の建物。

【請求項 4】

前記キッチンを挟んで前記パントリーとは反対側に前記居室が配置されており、

前記第 1 出入口は、前記キッチンを挟んで前記出入部と対向して配置されていることを特徴とする請求項 3 に記載の建物。

【請求項 5】

前記居室は、屋外に隣接して設けられ、前記囲み部の一部である外壁部分によって屋外と仕切られており、

前記外壁部分には、前記居室と屋外とを連通する開口部が形成されており、

前記開閉部材には、前記居室と前記キッチンとを通気可能に連通する通気部が設けられていることを特徴とする請求項 3 又は 4 に記載の建物。

【請求項 6】

前記キッチンを挟んで前記パントリーとは反対側に前記居室が配置されており、

前記第 1 出入口は、前記キッチンを挟んで前記出入部と対向して配置されており、

前記開口部は、前記居室を挟んで前記出入部と対向して配置されていることを特徴とする請求項 5 に記載の建物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、建物に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、住宅等の建物においては、キッチン（台所）に隣接してパントリー（食品庫）が設けられている場合がある（例えば特許文献 1 参照）。パントリーとは、食料品や調理器具、食器類等を収納するための小部屋である。パントリーは、通常、キッチンの奥に設けられており、キッチンから出入口を通じて出入りができるようになっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2010-255294 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、屋内スペースの有効利用の観点からすると、パントリーが食料品等を収納するためだけに用いられるのは好ましくない。その一方で、パントリーはキッチンの奥に設けられているため、パントリーへはキッチンを通して出入りするしかなく、パントリーを他の用途で利用しようとしても使い勝手がよくないと考えられる。

10

20

30

40

50

【0005】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、パントリーの有効利用を図ることができる建物を提供することを主たる目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決すべく、第1の発明の建物は、建物内の部屋として、食料品等を収納する食品庫であるパントリーがキッチンに隣接して設けられた建物であって、前記パントリーは、前記キッチンの他に洗面室にも隣接して配置されており、前記パントリーへの出入口として、前記キッチンから前記パントリーへの出入りを可能とする第1出入口と、前記洗面室から前記パントリーへの出入りを可能とする第2出入口とが設けられていることを特徴とする。

10

【0007】

本発明によれば、パントリー（食品庫）がキッチンに隣接して設けられているとともに、洗面室にも隣接して設けられており、キッチンからは第1出入口を通じてパントリーへの出入りが可能となっており、洗面室からは第2出入口を通じてパントリーへの出入りが可能となっている。これにより、キッチンと洗面室との間をパントリーを通じて行き来することができるため、キッチンで料理をしたり洗面室で洗濯をしたりする等家事を行う際の家事動線を短縮化させることができる。そのため、パントリーを利用して家事の効率化を図ることができ、パントリーの有効利用を図ることができる。

20

【0008】

また、パントリーが洗面室に隣接して設けられているため、パントリーには食料品等だけでなく、洗面室で用いられる洗剤やせっけん等を収納することもできる。この場合、キッチン及び洗面室で家事を行う際に必要なものをそれら各部屋の近くに収納しておくことができるため、家事を行うにあたって好都合となる。

【0009】

第2の発明の建物は、第1の発明において、前記パントリーは、外壁を隔てて屋外に隣接しており、前記外壁には、前記パントリーから屋外への出入りを可能とする第3出入口が設けられていることを特徴とする。

【0010】

本発明によれば、さらに、パントリーから屋外へ第3出入口を通じて出入りが可能となっているため、例えばキッチンからパントリーを通じて屋外にごみ出しに出たり、洗面室からパントリーを通じて屋外に洗濯物を干しに出たりすることができる。この場合、ごみ出しや洗濯物干しを速やかに行うことができるため、パントリーを利用してさらなる家事の効率化を図ることができ、パントリーについてより一層の有効利用を図ることができる。

30

【0011】

また、パントリーが屋外に隣接して設けられているため、パントリーには、屋外で洗濯物を干す際に用いられる洗濯ばさみやハンガー等を収納しておくこともできる。この場合、キッチン、洗面室及び屋外のそれぞれで家事を行う際に必要なものを近くに収納しておくことができるため、家事を行うにあたってより好都合となる。

40

【0012】

第3の発明の建物は、第2の発明において、前記パントリーには、食料品等を収納するための収納棚が設置されており、前記パントリーの四方を囲む4つの壁部のうち、3つの壁部にそれぞれ前記第1出入口と前記第2出入口と前記第3出入口とが形成されており、それら出入口が形成されていない残りの壁部の壁面に沿って前記収納棚が設置されていることを特徴とする。

【0013】

一般に、パントリーには、食料品等を収納する収納棚が設置されている。キッチン、洗面室及び屋外のそれぞれからパントリーへの出入りが可能とされている上記第2の発明の構成では、この収納棚にキッチン、洗面室及び屋外のそれぞれで家事に用いられるものが

50

収納されることが想定される。そこで本発明では、この点に鑑みて、パントリーを囲む4つの壁部のうち、出入口が形成されていない壁部の壁面に沿って収納棚を設置している。この場合、いずれの出入口からパントリーに入ったとしても、すなわちキッチン、洗面室及び屋外のいずれからパントリーに入ったとしても、収納棚へのアクセスがし易い。このため、収納棚の使い勝手をよくすることができる。

【0014】

第4の発明の建物は、第1乃至第3のいずれかの発明において、前記キッチンに隣接してダイニングが設けられており、前記キッチンと前記洗面室との間を前記ダイニングを経由して行き来する場合に、前記洗面室への出入りを行うための出入口として第4出入口が設けられていることを特徴とする。

10

【0015】

キッチンに隣接してダイニングが設けられている建物では、通常、家事を行うにあたってキッチンと洗面室との間を行き来する際、ダイニングを経由して移動することになる。しかしながら、ダイニングに来客がいる場合等には、客の前を通過して移動することになるため都合が悪い。その点、本発明によれば、パントリーを経由してキッチンと洗面室との間を行き来することができるため、ダイニングに来客がいる場合であっても客の前を通らずに家事を行うことができる。

【0016】

第5の発明の建物は、第1乃至第4のいずれかの発明において、前記キッチンと隣接しかつ囲み部によって囲まれた居室が設けられており、前記囲み部には、前記キッチンと前記居室との間を出入りするための出入部が設けられており、前記出入部には、前記囲み部の一部であってかつ当該出入部を開閉する開閉部材が設けられており、前記開閉部材は、前記キッチンから前記居室を見通すための見通し部を有することを特徴とする。

20

【0017】

本発明によれば、キッチンと隣接して居室が設けられているため、キッチンで家事をする際にその居室を子供やペット（以下、子供等という）の居場所として利用すれば、子供等がけがをする等の不都合が起こっても即座に対応することができる。また、居室が囲み部によって囲まれているため、子供等が勝手に居室から出て料理をしているキッチンの方へ来てしまうのを防止することができる。これにより、子供等の安全性を確保しながらキッチンで家事を行うことができる。

30

【0018】

また、キッチンと居室との間を出入りするための出入部には開閉部材が設けられ、その開閉部材には見通し部が設けられているため、出入部を開閉部材により閉鎖した状態でもキッチンから見通し部を通じて子供等の様子を監視することができる。これにより、子供等の安全性を好適に確保しながらキッチンで家事をすることができる。

【0019】

第6の発明の建物は、第5の発明において、前記キッチンを含んで前記パントリーとは反対側に前記居室が配置されており、前記第1出入口は、前記キッチンを含んで前記出入部と対向して配置されていることを特徴とする。

【0020】

40

本発明によれば、第1出入口がキッチンを含んで出入部と対向して配置されているため、家事を行うにあたってパントリーを通る際、パントリーから第1出入口と出入部（開閉部材の見通し部）とを通じて居室を見ることができる。これにより、パントリーを通る度に、居室にいる子供等の様子をキッチン越しに伺うことができるため、子供等の安全性をより確保し易くすることができる。

【0021】

第7の発明の建物は、第5又は第6の発明において、前記居室は、屋外に隣接して設けられ、前記囲み部の一部である外壁部分によって屋外と仕切られており、前記外壁部分には、前記居室と屋外とを連通する開口部が形成されており、前記開閉部材には、前記居室と前記キッチンとを通気可能に連通する通気部が設けられていることを特徴とする。

50

【0022】

本発明によれば、居室が屋外と外壁部分によって仕切られており、その外壁部分には居室と屋外とを連通する開口部が形成されているため、その開口部を通じて居室に風（外気）を取り込むことができる。これにより、居間において子供等が快適に過ごすことが可能となる。また、開閉部材には通気部が設けられているため、開閉部材を閉めたままでも居室に取り込まれた風を通気部を通じてキッチンへ送り込むことができる。これにより、居室における子供等の安全性を確保しながら、キッチンにおいて家事を快適に行うことが可能となる。

【0023】

第8の発明の建物は、第7の発明において、前記パントリーは、外壁を隔てて屋外に隣接しており、前記外壁には、前記パントリーから屋外への出入りを可能とする第3出入口が設けられており、前記第3出入口は、前記パントリーを挟んで前記第1出入口と対向して配置されており、前記キッチンを挟んで前記パントリーとは反対側に前記居室が配置されており、前記第1出入口は、前記キッチンを挟んで前記出入部と対向して配置されており、前記開口部は、前記居室を挟んで前記出入部と対向して配置されていることを特徴とする。

10

【0024】

本発明によれば、キッチンを挟んだ両側にパントリーと居室とがそれぞれ配置されており、パントリー、キッチン、居室がこの順に並んで配置されている。そして、パントリーを屋外と隔てる外壁に設けられた第3出入口がパントリーを挟んで第1出入口と対向配置され、第1出入口がキッチンを挟んで出入部と対向配置され、出入部が居室を挟んで開口部と対向配置されている。この場合、第3出入口、第1出入口、出入部及び開口部が並んで配置されているため、これら各開口部を通じて居室、キッチン及びパントリーに好適に風を通すことができる。これにより、居室とキッチンとを共に快適な空間とすることができるとともに、パントリーに湿気がこもるのを抑制することができるため、居室にいる子供等にとっても、キッチンで家事をする者にとっても、パントリーに収納されている食材にとっても、良好な環境とすることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0025】

【図1】住宅の一階部分の間取りを示す平面図。

30

【図2】一階部分の間取りの別例を示す図。

【発明を実施するための形態】

【0026】

以下に、本発明を具体化した一実施の形態について図面を参照しつつ説明する。本実施形態における建物は二階建ての住宅となっており、この住宅に居住者として夫婦と子供とからなる4人家族が居住している場合を想定している。図1は、住宅の一階部分の間取りを示す平面図である。

【0027】

図1に示すように、住宅10は、平面視において略矩形形状をなしており、その外周部には外壁11が設けられている。住宅10の一階部分には、その外壁11により囲まれた内側に、屋内空間として、玄関12と、LD（リビング・ダイニング）13と、キッチン14と、洗面室15と、浴室16と、トイレ17とが設けられている。

40

【0028】

玄関12は、一階部分において南東の角部に設けられている。玄関12は、南側の外壁11aによって玄関ポーチ21と仕切られており、その外壁11aには、玄関12と玄関ポーチ21とを連通する玄関口22が設けられている。この玄関口22を通じて住宅10への出入りが可能となっている。また、玄関口22には、当該玄関口22を開閉する玄関ドア23が設けられている。

【0029】

LD13は、リビング空間（以下、単にリビング25という）と、ダイニング空間（以

50

下、単にダイニング２６という）とが連続して形成された一体空間となっている。リビング２５には、テーブル２８aと椅子２８bとを有してなるソファセット２８が設けられている。リビング２５は、家族団らんの場、テレビ鑑賞の場として用いられる他、来客時における接客の場としても用いられる。ダイニング２６には、テーブル２９aと椅子２９bとを有してなる食卓セット２９が設けられている。ダイニング２６は、食事の場として用いられる他、来客時における接客の場としても用いられる。

【００３０】

キッチン１４は、ダイニング２６の西側に隣接して設けられている。キッチン１４は、南北方向に長い長方形の空間となっており、西側の外壁１１bに隣接している。キッチン１４とダイニング２６との間には仕切壁が設けられておらず、それによってキッチン１４はダイニング２６と連続した空間となっている。キッチン１４には、流し台３１aやコンロ台３１bを有する作業台３１が設けられている。作業台３１は、キッチン１４とダイニング２６との境界に沿って設けられており、この作業台３１によってキッチン１４とダイニング２６とが区画されている。

10

【００３１】

キッチン１４には、西側の外壁１１bに沿って冷蔵庫３２や食器棚３３が設けられている。キッチン１４においてこれら冷蔵庫３２及び食器棚３３と作業台３１との間のスペースは通路スペース３４（作業スペース）となっている。この通路スペース３４は、作業台３１の南側に設けられた出入り部３５を介してダイニング２６と通じている。

20

【００３２】

洗面室１５は、ダイニング２６の北側に隣接して設けられている。洗面室１５には、洗面台４１や洗濯機４２、収納棚４３等が設けられている。洗面室１５は、ダイニング２６と仕切壁３７によって仕切られており、その仕切壁３７にはダイニング２６と洗面室１５との間を出入りするための出入口３８が設けられている。出入口３８には、当該出入口３８を開閉する折戸３９が設けられている。なお、この場合、出入口３８が第４出入口に相当し、折戸３９が第４開閉部に相当する。また、第４開閉部として、折戸３９に代えて、引き戸や回動式のドアを用いてもよい。

【００３３】

浴室１６は、洗面室１５の東側に隣接して設けられている。浴室１６は洗面室１５と仕切壁４５によって仕切られており、その仕切壁４５には洗面室１５と浴室１６との間を出入りするための出入口４６が設けられている。なお、洗面室１５と浴室１６とはいずれも北側の外壁１１cに隣接して設けられている。

30

【００３４】

ダイニング２６の東側には、二階部分へ通じる階段４８が設置された階段室４９が設けられている。階段室４９へは出入口５１を通じてダイニング２６から出入り可能となっている。また、階段室４９の北側にはトイレ１７が設けられており、階段室４９の南側には衣服を収納する収納室５２が設けられている。

【００３５】

ところで、住宅１０の一階部分には、上述の屋内空間１２～１７の他に、食料品等を収納する食品庫であるパントリー２０が設けられている。本実施形態では、このパントリー２０周辺の間取りに関して特徴を有しており、以下この点について説明をする。

40

【００３６】

パントリー２０は、食料品や調理器具、食器等を収納するための小部屋であり、キッチン１４の北側に隣接して設けられている。パントリー２０は、一階部分において北西の隅部に配置されている。パントリー２０は、その平面視形状がパントリー２０とキッチン１４とが並ぶ並び方向と直交する方向（東西方向）に長い長方形状となっている。パントリー２０は、その長手方向の長さがキッチン１４における同方向の長さと同様となっており、その短手方向の長さが後述する洗面室１５への出入口５８の開口幅と同様となっている。

【００３７】

50

パントリー 20 は、仕切壁 54 によってキッチン 14 と仕切られており、その仕切壁 54 にはキッチン 14 とパントリー 20 との間を出入りするための出入口 55 が設けられている。この出入口 55 には、当該出入口 55 を開閉する引き戸 56 が設けられている。なお、この場合、出入口 55 が第 1 出入口に相当し、引き戸 56 が第 1 開閉部に相当する。但し、第 1 開閉部として、引き戸 56 に代えて回動式のドア等を用いてもよい。また、第 1 開閉部を設けないようにしてもよい。

【0038】

パントリー 20 は、洗面室 15 の西側に隣接して設けられている。パントリー 20 は、仕切壁 57 によって洗面室 15 と仕切られており、その仕切壁 57 には洗面室 15 とパントリー 20 との間を出入りするための出入口 58 が設けられている。この出入口 58 には、当該出入口 58 を開閉する折戸 59 が設けられている。なお、この場合、出入口 58 が第 2 出入口に相当し、折戸 59 が第 2 開閉部に相当する。但し、第 2 開閉部として、折戸 59 に代えて、回動式のドアや引き戸等を用いてもよい。

【0039】

パントリー 20 の北側には、外壁 11c を隔ててテラス 61 が隣接して設けられている。外壁 11c には、パントリー 20 とテラス 61 との間を出入りするための出入口 63 が設けられている。この出入口 63 は、パントリー 20 を挟んで出入口 55 と対向して配置されている。また、出入口 63 には、当該出入口 63 を開閉する回動式のドア 64 が設けられている。このドア 64 は、屋外への回動により開状態となる外開き式のドアとなっている。なお、この場合、出入口 63 が第 3 出入口に相当し、ドア 64 が第 3 開閉部に相当する。但し、第 3 開閉部として、回動式のドア 64 に代えて、引き戸等を用いてもよい。

【0040】

テラス 61（テラス空間）は、屋外にウッドデッキが敷設されることにより形成された床上空間となっている。テラス 61 には、その隅部にゴミ収集箱 65 が設置されている。これにより、キッチン 14 で料理の際に発生した生ゴミ等をこのゴミ収集箱 65 に捨てるのが可能となっている。また、テラス 61 は、洗濯物を干すための物干しスペースとしての利用も可能となっている。したがって、テラス 61 は、ゴミ捨てスペース及び物干しスペースに相当する。

【0041】

パントリー 20 には、西側の外壁 11b に沿って収納棚 60 が設置されている。収納棚 60 は、キッチン 14 で用いられる食料品や調理器具、食器等を収納するための棚である。本実施形態では、この収納棚 60 に、食料品等の他に、洗面室 15 で用いられる洗剤や石けん等が収納されているとともに、テラス 61 で用いられる洗濯ばさみやハンガー等が収納されている。収納棚 60 は、その幅がパントリー 20 の短手方向（南北方向）の長さと同じとなっており、パントリー 20 を挟んで（南北方向に）対向する外壁 11c と仕切壁 54 とに跨がって配設されている。この場合、収納棚 60 は、（東西方向に）出入口 58 と対向して配置されており、各出入口 55、63 に対して西側に配置されている。

【0042】

住宅 10 の一階部分には、さらに屋内空間として居間 19 が設けられている。居間 19 は、キッチン 14 の南側に隣接して設けられており、キッチン 14 を挟んでパントリー 20 とは反対側に配置されている。居間 19 は、一階部分において南西の角部に配置されている。本実施形態では、この居間 19 が子供の居場所として利用されるものとなっている。居間 19 は、その床材 67 が柔軟性の高い素材（例えばクッション材）により形成されている。そのため、居間 19 で子供が転んだりしてもけがすることがないようになっている。また、居間 19 には、子供用の学習机 66 が設けられている。なお、居間 19 が「居室」に相当する。

【0043】

居間 19 とキッチン 14 との間には仕切壁が設けられておらず、それ故居間 19 とキッチン 14 との間の境界部には同境界部全域に亘って開口部 72 が形成されている。この開口部 72 を通じてキッチン 14 と居間 19 との間の出入りが可能となっている。また、開

10

20

30

40

50

口部 7 2 は、キッチン 1 4（詳しくは通路スペース 3 4）を挟んで出入口 5 5 と対向して配置されている。なお、この開口部 7 2 が出入部に相当する。

【0044】

開口部 7 2 には、当該開口部 7 2 を開閉する格子戸 7 3 が設けられている。格子戸 7 3 は、複数の長尺材を格子状に並べて形成された引き戸からなる。格子戸 7 3 は、開口部 7 2 において複数（具体的には 3 つ）設けられており、これら各格子戸 7 3 が開口部 7 2 の幅方向に並べて配置されることにより開口部 7 2 が閉鎖されるようになっている。なお、この格子戸 7 3 が開閉部材に相当する。但し、格子戸 7 3 は必ずしも引き戸とする必要はなく、折戸や回動式のドアとしてもよい。また、格子戸 7 3 を閉めた状態で当該格子戸 7 3 を施錠する施錠部（ロック部）を設けてもよい。

10

【0045】

格子戸 7 3 において、長尺材同士の間隙間はキッチン 1 4 と居間 1 9 とを連通する通気部 7 4 となっている。この通気部 7 4 を通じてキッチン 1 4 と居間 1 9 との間で通気が可能となっている。また、通気部 7 4 は、キッチン 1 4 から居間 1 9 を見通すための見通し部としての役割も有している。これにより、キッチン 1 4 で家事をしながら居間 1 9 で遊ぶ子供を監視することが可能となっている。さらに、この通気部 7 4 を通じて居間 1 9 からキッチン 1 4 へ光を採り入れることも可能である。また、通気部 7 4 によって居間 1 9 の音がキッチン 1 4 へ伝わり易くなるため、子供の様子が把握し易くなる効果もある。

【0046】

居間 1 9 は、その東側においてリビング 2 5 と隣接している。居間 1 9 とリビング 2 5 との間には仕切壁が設けられておらず、居間 1 9 とリビング 2 5 との境界に沿って複数（図 1 では 4 つ）の収納棚 6 8 が並べて設けられている。これらの収納棚 6 8 は、居間 1 9 とリビング 2 5 との間の境界部全域に亘って配置されており、その高さ寸法が居間 1 9 の床面から天井面付近までの上下寸法と略同じとなっている。これにより、これら収納棚 6 8 によって居間 1 9 とリビング 2 5 とが出入り不能に仕切られている。なお、収納棚 6 8 は、その高さ寸法が腰高程度（例えば 1 m 程度）のものであってもよい。また、収納棚 6 8 に代えて、居間 1 9 とリビング 2 5 とを仕切る仕切壁を設けてもよい。

20

【0047】

居間 1 9 は、西側の外壁 1 1 b によって屋外と仕切られており、南側の外壁 1 1 a によって屋外（詳細には後述するテラス 7 6）と仕切られている。つまり、居間 1 9 は、格子戸 7 3 が閉められた状態では、格子戸 7 3 と各収納棚 6 8 と各外壁 1 1 a、1 1 b とによって囲まれた空間となる。なお、この場合、格子戸 7 3 と各収納棚 6 8 と各外壁 1 1 a、1 1 b とにより囲み部が構成されている。

30

【0048】

居間 1 9 の南側には、外壁 1 1 a を隔ててテラス 7 6 が隣接して設けられている。テラス 7 6（テラス空間）は、屋外にウッドデッキが敷設されることにより形成された床上空間となっている。テラス 7 6 は、洗濯物を干すための物干しスペースとして利用することができる他、子供の遊び場として利用することも可能である。

【0049】

テラス 7 6 を居間 1 9 と仕切る外壁 1 1 a（外壁部分）には、居間 1 9 とテラス 7 6 との間を出入りするための出入口 7 7 が設けられている。出入口 7 7 は、いわゆる掃き出し窓となっており、居間 1 9 を挟んで開口部 7 2 と（南北方向に）対向して配置されている。この場合、出入口 7 7 と開口部 7 2 と出入口 5 5 と出入口 6 3 とは南北方向に一列に並んで配置されている。出入口 7 7 には、当該出入口 7 7 を開閉するサッシ戸 7 8 が設けられている。なお、この場合、出入口 7 7 が開口部及び第 5 出入口に相当し、サッシ戸 7 8 が第 5 開閉部に相当する。

40

【0050】

以上、詳述した本実施形態の構成によれば、以下の優れた効果が得られる。

【0051】

パントリー 2 0 をキッチン 1 4 に隣接させて配置するとともに洗面室 1 5 にも隣接させ

50

て配置し、そしてパントリー２０への出入口として、キッチン１４からの出入口５５と、洗面室１５からの出入口５８とを設けた。この場合、キッチン１４と洗面室１５との間をパントリー２０を経由して行き来することができるため、キッチン１４で料理したり洗面室１５で洗濯したりする等家事を行う際の家事動線を短縮させることができる。これにより、パントリー２０を利用して家事の効率化を図ることができ、パントリー２０の有効利用を図ることができる。

【００５２】

さらに、パントリー２０から屋外のテラス６１へ出入りするための出入口６３を設けたため、キッチン１４からパントリー２０を通じてテラス６１のごみ収集箱６５へごみ出しに出たり、洗面室１５からパントリー２０を通じてテラス６１へ洗濯物を干しに出たりすることができる。この場合、ごみ出しや洗濯物干しを速やかに行うことができるため、パントリー２０を利用してさらなる家事の効率化を図ることができる。よって、パントリー２０のより一層の有効利用を図ることができる。

10

【００５３】

また、パントリー２０をキッチン１４だけでなく洗面室１５及びテラス６１にも隣接させたことで、パントリー２０（収納棚６０）にはキッチン１４で用いられる食料品等だけでなく、洗面室１５で用いられる洗剤やせっけん等、さらにはテラス６１にて洗濯物を干す際に用いられる洗濯ばさみやハンガー等を収納することができる。これにより、キッチン１４及び洗面室１５、テラス６１のそれぞれで家事を行うのに必要なものを近くに収納しておくことができるため、家事を行うにあたって好都合となる。

20

【００５４】

パントリー２０の四方を囲む４つの壁部５４，５７，１１ｃ，１１ｂのうち、３つの壁部５４，５７，１１ｃにそれぞれ各出入口５５，５８，６３を形成し、残りの壁部１１ｂの壁面に沿って収納棚６０を設置した。これにより、いずれの出入口５５，５８，６３からパントリー２０に入ったとしても、つまりキッチン１４、洗面室１５及びテラス６１のうちいずれからパントリー２０に入ったとしても収納棚６０へのアクセスがし易くなり、収納棚６０の使い勝手をよくすることができる。

【００５５】

キッチン１４に隣接してダイニング２６が設けられている本実施形態のような住宅１０では、通常、家事を行うにあたってキッチン１４と洗面室１５との間を行き来する際、ダイニング２６を経由して移動することになる。しかしながら、ダイニング２６に来客がいる場合等には、客の前を通過して移動することになるため都合が悪い。その点、パントリー２０を経由して（換言するとダイニング２６を経由せずに）キッチン１４と洗面室１５との間の行き来を可能としたことで、ダイニング２６に来客がいる場合であっても客の前を通らずに家事を行うことができる。

30

【００５６】

キッチン１４と隣接して設けた居間１９を子供の居場所としたため、子供がけがする等の不都合が起こっても即座に対応することができる。また、居間１９を囲み部（格子戸７３、各収納棚６８、外壁１１ａ，１１ｂ）によって囲んだため、子供が勝手に居間１９の外へ出て料理をしているキッチン１４の方へ来てしまうのを防止することができる。これにより、子供の安全性を確保しながらキッチン１４で家事を行うことができる。

40

【００５７】

また、キッチン１４と居間１９との間を出入りするための開口部７２に格子戸７３を設け、その格子戸７３の通気部７４をキッチン１４から居間１９を見通すための見通し部としたため、開口部７２を格子戸７３により閉鎖した状態でもキッチン１４から見通し部を通じて居間１９の子供の様子を監視することができる。これにより、子供の安全性を好適に確保しながらキッチン１４で家事をすることができる。

【００５８】

なお、来客時には格子戸７３を閉めておくことで、居間１９で子供がおもちゃ等を散らかしてもそのままにしておくことができるため、家事の負担を減らせる。

50

【0059】

キッチン14を挟んでパントリー20とは反対側に居間19を配置するとともに、キッチン14を挟んで開口部72と対向する位置に出入口55を配置した。この場合、家事を行うにあたりパントリー20を通る際、パントリー20から出入口55と開口部72（詳しくは格子戸73の見通し部）とを通じて居間19を見ることができるため、パントリー20を通る度に、居間19にいる子供の様子をキッチン14越しに伺うことができる。そのため、子供の安全性をより確保し易くすることができる。

【0060】

居間19を屋外と仕切る外壁11a（外壁部分）に居間19と屋外とを連通する出入口77を設けたため、サッシ戸78を開けておけば出入口77を通じて居間19に風（外気）を取り込むことができる。これにより、居間19において子供が快適に過ごすことが可能となる。また、格子戸73には通気部74を設けたため、格子戸73を閉めたままでも居間19に取り込まれた風をキッチン14へ送り込むことができる。これにより、子供の安全性を確保しながら、キッチン14において家事を快適に行うことが可能となる。

10

【0061】

出入口63をパントリー20を挟んで出入口55と対向させて配置し、出入口55をキッチン14を挟んで開口部72と対向させて配置し、開口部72を居間19を挟んで出入口77と対向させて配置した。この場合、出入口63、出入口55、開口部72及び出入口77が（南北方向に）一列に並んで配置されているため、ドア64、引き戸56及びサッシ戸78を開けておけば、これら各開口55、63、72、77を通じて居間19、キッチン14及びパントリー20に好適に風を通すことができる。これにより、居間19とキッチン14とを共に快適な空間とすることができるとともに、パントリー20に湿気がこもるのを抑制することができるため、居間19にいる子供等にとっても、キッチン14で家事をする者にとっても、パントリー20に収納されている食材にとっても、良好な環境とすることができる。

20

【0062】

本発明は上記実施形態に限らず、例えば次のように実施されてもよい。

【0063】

（1）パントリー20周辺の間取りは必ずしも上記実施形態のものに限定されることなく、その他の間取りとしてもよい。例えば、図2（a）に示すように、パントリー20を挟んだ両側にそれぞれキッチン14及び洗面室15を隣接させて設けてもよい。この場合にも、パントリー20へキッチン14から出入口55を通じて出入り可能とし、洗面室15から出入口58を通じて出入り可能とすることで、キッチン14と洗面室15との間をパントリー20を通じて行き来することが可能となる。そのため、家事動線の短縮化を図ることができる、パントリー20を利用して家事の効率化を図ることができる。

30

【0064】

また、図2（a）においても、パントリー20から屋外への出入りを可能とする出入口63がさらに設けられているため、キッチン14からパントリー20を通じて屋外にごみ出しに出たり洗面室15からパントリー20を通じて屋外に洗濯物を干しに出たりすることができる。そのため、パントリー20を利用したさらなる家事の効率化を図ることができる。

40

【0065】

なお、図2（b）に示すように、パントリー20から屋外への出入口63を設けなくてもよい。この場合であっても、キッチン14と洗面室15との間をパントリー20を通じて行き来することが可能であるため、パントリー20を利用した家事の効率化を図ることができる。

【0066】

また、図2（c）に示すように、パントリー20をキッチン14、洗面室15、屋外にそれぞれ隣接させるとともに、さらにダイニング26に隣接させ、パントリー20への出入口として、各出入口55、58、63に加え、ダイニング26からパントリー20への

50

出入口 81 を設けるようにしてもよい。この場合、4 つの出入口 55, 58, 63, 81 から、つまりキッチン 14、洗面室 15、屋外及びダイニング 26 からそれぞれパントリー 20 への出入りが可能となり、パントリー 20 を利用して一階部分におけるさらなる動線の短縮化を図ることができる。

【0067】

(2) 上記実施形態では、外壁 11a に開口部としてテラス 76 への出入口 77 を設けたが、これに代えて、窓部（開口部に相当）を設けてもよい。この場合でも、窓部を通じて屋外の風を居間 19 に採り入れることができるとともに、その採り入れた風を通気部 74 を通じてキッチン 14 へと送り込むことができる。これにより、居間 19 における子供の安全性を確保しながらキッチン 14 において家事を快適に行うことが可能となる。

10

【0068】

(3) 上記実施形態では、居間 19 を子供の居場所として利用したが、居間 19 をペットの居場所として利用してもよい。この場合にも、格子戸 73 を閉めておけばペットが居間 19 から料理をしているキッチン 14 の方へ飛び出すのを防止することができ、格子戸 73 を閉めた状態でも通気部 74 を通じてキッチン 14 から居間 19 にいるペットの様子を確認することができる。そのため、ペットの安全性を好適に確保しながらキッチン 14 で家事を行うことができる。

【0069】

(4) 上記実施形態では、開閉部材としての格子戸 73 にキッチン 14 と居間 19 とを連通する通気部 74（連通部）を設け、その通気部 74 を見通し部としたが、見通し部は必ずしもかかる連通部によって構成する必要はない。例えば、開閉部材をかかかる連通部を有しない引き戸により構成し、その引き戸の少なくとも一部をガラス等の透明板により構成してもよい。その場合、透明板が見通し部となり、その透明板を通じてキッチン 14 から居間 19 を見通すことが可能となる。

20

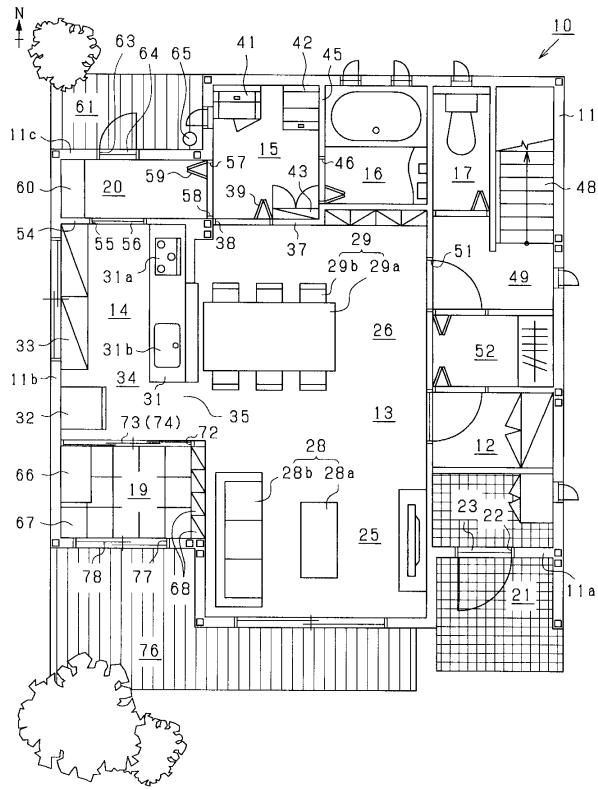
【符号の説明】

【0070】

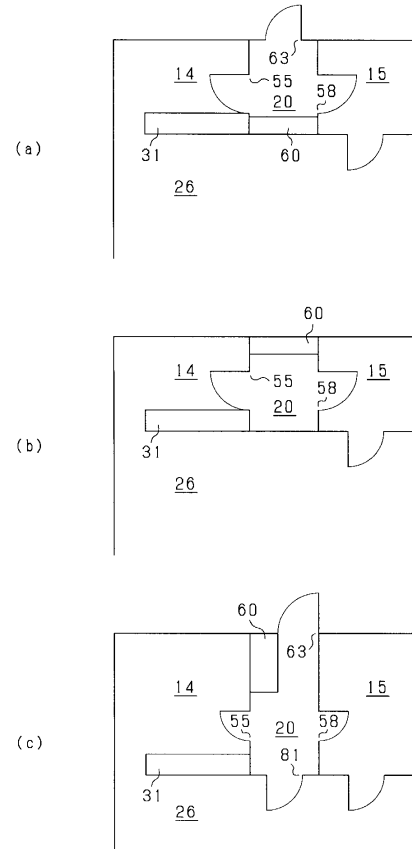
10…建物としての住宅、11…外壁、14…キッチン、15…洗面室、19…居室としての居間、20…パントリー、26…ダイニング、38…第4出入口としての出入口、55…第1出入口としての出入口、58…第2出入口としての出入口、60…収納棚、63…第3出入口としての出入口、72…出入部としての開口部、73…開閉部材としての格子戸、74…見通し部としての通気部、77…開口部としての出入口。

30

【図 1】



【図 2】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2007-070925 (JP, A)
特開2012-026105 (JP, A)
特開2011-001761 (JP, A)
登録実用新案第3085919 (JP, U)
特開2013-014896 (JP, A)
特開2002-061397 (JP, A)
特開平8-260596 (JP, A)
特開2000-96840 (JP, A)
特開2001-311316 (JP, A)
ニューハウス出版株式会社, HOME MAKE 住まいのベスト間取り540集, ニューハウス出版株式会社, 1996年 2月29日, p.275 上図

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E04H 1/02